

## 日本青年会議所 建設部会 2018年度 副部会長 所信

副部会長（東海北陸地区担当） 西村 良

東京オリンピックの開催を3年後に控えた今、特に建設業界は活況を呈していると言えます。同時に、2012年にスタートしたアベノミクスは、2017年11月においては株価がバブル後の連続最高値記録を更新するなど「株価の上昇」というストック面での企業価値の上昇という点においては一定の成果を上げていると言えます。

一方で、企業の価値は金銭的側面だけで測るはなく「お金だけではない別のもの」で測ることが時代の中で求められているのではないのでしょうか。

その解答を示すため、今年度日本青年会議所建設部会副部会長という重責を担わせていただくにあたり、私は建設部会に参加された会員皆様が「建設部会に参加してよかった」という高い満足感を持っていただくことを目指します。

具体的には、積極的な会員交流を通じた、会員間の強い絆作りです。この人的ネットワークの深化と拡大は社業の発展に直結するだけでなく、LOMへの貢献へとつながります。部会での活動で得た学びをLOMへ持ち帰り、LOMでの経験を部会の活動で共有する。この部会とLOMが相互に共鳴し合う関係性こそが会員相互の絆を強める方程式です。そして、最後はその満足感を社業と家庭にフィードバックして下さい。家族や会社の支えや理解があつてのJC活動だからこそ、時間とお金の投資を家族の幸せ、社員の満足感の向上へと結実して頂きたいと思います。

私の「絆」のイメージは建設業に脈々と流れている「命を預けられるぐらいの信頼感」です。職人が親方を慕うように、親方が職人を愛するように、組織や役職で結びつけられた絆ではなく、個々の人間性への魅力で結ばれた仲間意識こそが本当の絆です。この絆があれば、様々な場面で直面する高い壁を乗り越えられる勇気と情熱が湧いてくるのではないのでしょうか。仲間がいればできること、仲間がいるからこそ挑戦できること。共に高みに挑むような情熱あふれる連帯感を作り、建設部会が一枚岩となる一年にしたいと考えています。

最後になりますが、戦後の荒廃した国土を豊かな国土に変えたのも、震災で壊滅したまちを復興させているのも、建設業です。私たちが情熱をもって社業に取り組むことこそが、最も国と郷土の為になります。

稲盛和夫氏は言います。「人生、仕事の結果＝考え方×能力×情熱」

情熱が無ければ、どれだけ高い能力があつたとしても結果は「ゼロ」です。

私はこの一年、全力で皆様と向き合い、皆様の情熱が肌で感じられるような距離感にいる副部会長を目指します。どうか、皆様も全力でコミットして頂き、そこで生まれる情熱をエネルギーにして、個人の成長、部会の発展につなげて頂きたいと思います。